

(題名) 順天堂医院における敷地内禁煙の取り組みについて

順天堂大学医学部附属順天堂医院 事務部管理課 唐島孝彰 ・ 順天堂大学医学部呼吸器内科 瀬山邦明
順天堂大学医学部附属順天堂医院 禁煙推進委員会

順天堂大学は、医学やスポーツを介して社会に貢献する健康総合大学として喫煙による健康被害を積極的に社会に啓蒙していきたいと考え、病院を含むキャンパス敷地内全面禁煙とすることを決定した。その準備として禁煙推進委員会を平成18年4月に発足した。委員会の構成員は、医師・看護師・コメディカル・事務系と他職種から選出し、同委員会において、8月1日を敷地内禁煙開始日と決定して活動を開始した。

学内・学外（患者を含む）に対し、ポスターの掲出やチラシの配布、ホームページに掲載する等広報活動を行うと共に、①喫煙状況調査（職員・医学生）、②喫煙所の確認と撤去計画の作成、③喫煙者（教職員・医学生、患者・家族等）を対象とした禁煙教室などの支援活動等々を実施した。また、④客待ちタクシーを禁煙車のみとし、地域のタクシー協会へ協力を要請した。

①では、喫煙率が事務・技術職 22%、臨床系医師 15.7%、看護職 13.6%、大学全体でも 16.6%であった。

②では、実施当日に早朝より喫煙所・灰皿等を統べて撤去した。同時に、敷地内禁煙実施以降の入院患者には、「敷地内禁煙協力書」に署名いただくことを開始した。また、⑤委員会メンバーの他に病院・大学の各部署からの参加協力を得て禁煙パトロールを開始し、チラシの配布、キャンパス周辺の吸殻等の清掃等を実施し、外来者等への理解と協力を求めた。さらに、⑥禁煙外来を自費診療から保険診療に移行し、禁煙を希望する患者や職員を積極的に支援する体制を整えた。

⑦敷地内禁煙実施から1ヶ月を経過した時点で、教職員、学生、派遣・委託業者を対象に、「タバコに関する意識および敷地内禁煙に関するアンケート」調査を

実施した。⑦では、全体の約半数が、「過去にたばこをやめた」もしくは「タバコを吸うのをやめたい」ことが分かった。また、「喫煙は病気である」との認識が50%を割っていることから、更なる啓蒙活動と禁煙支援が今後の課題と考えている。また、敷地内禁煙については、約70%が今後も続けてほしいと回答しており、病院・医学部を含むキャンパス全体の敷地内全面禁煙に取り組む過程で、医師、看護師を始めとして病院・大学各部署の様々な職種の連帯が得られたことで、教職員や患者から敷地内禁煙に対する理解を得ることが出来、大きな混乱もなく進めることが出来た。今後も、禁煙推進委員会を中心に、教職員・患者への禁煙支援、禁煙支援ニュースの発行や禁煙パトロールの実施等の啓蒙活動、禁煙タクシーの推進等スモークフリーの環境整備等を継続的に推進し、更には、周辺の自治体とも連携を図りながら、地域社会の禁煙や環境美化にも積極的に貢献していきたい。

学内外への広報活動

- ポスター掲示
- チラシの配布
- 院内放送・テロップ
- ホームページへの掲載
- 各課会議等での周知徹底
- 文京区との協力
- ポスターの提供・貸出
- 客待ちタクシーを禁煙車へタクシー協会への協力要請

喫煙者への支援活動

- 禁煙支援教室
教職員・学生対象
7/7と7/20の2回
- 禁煙教室
外来・入院患者・そのご家族を対象
7/20 病棟・院内
7/27 産婦・小児の2回開催

禁煙パトロールの実施

第1回：8/1～8/15 12:00～
第2回：9月毎週金曜日 12:00～
第3回：11/13～11/18 12:30～
(※禁煙強化週間)

禁煙外来が「保険適応」へ

8月1日より「ニコチン依存症管理科」の施設基準をクリア！

禁煙外来が自費診療から保険診療になり、禁煙を希望する患者や教職員を積極的に支援することが可能となりました。

